

KiKiの広場

2017年 9月 1日

cafe NO.83
KiKi



この夏は、突然の雷と雨が凄かったですね。いつもながらこの辺りは被害が少なくありがたいですが、多いところはこれでもかと立て続けに被害に遭われています。轟き音と共に、稲妻が雲を幾重にもジグザグに切り裂く映像を目の当たりにすると、そこにどれほどのエネルギーが存在するのかと、本当に恐ろしさを感じました。今年の台風のピークは9月と予想されているようですが、「ゲリラ」という単語を使わないですむような、優しい雨が降ってくれることを祈っています。

9月の予定

休館日	12日(火)
定休日	毎土・日曜日
臨時休業日	26日(火)



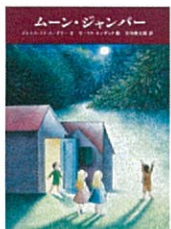
「今月のケーキ」…「マロンケーキ」350円

マロンクリームをカラメル風味のスポンジではさんで、クラッシュマロンとマロンペーストをトッピングした、毎年人気のケーキです。



今月のお気に入り…「いろいろな秋を味わおう！」

～「ムーン・ジャンパー」「かぜをひいたおつきさま」「川はたまげたことだらけ」「花さき山」「さつまのいも」 などなど～



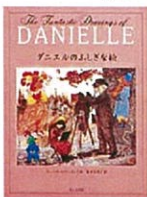
「ムーン・ジャンパー」の作者は、「木はいいなあ」のジャニス・メイ・ユードリー、絵は「かいじゅうたちのいるところ」のモーリス・センダック、そして訳は谷川俊太郎さんというなんとも豪華なメンバーです。幻想的な月の光に誘われて、親に内緒で子どもたちがこっそり外に出てきます。詩的な文章と、裸足で踏みしめる芝生の感触まで伝わってくるような繊細で美しい絵。子どもたちと一緒に月に向かってジャンプしたくなる、そんな懐かしい思いが蘇るような心躍る絵本です。

「かぜをひいたおつきさま」の作者は、月をテーマにした作品が多い、ロシア現代美術を代表するレオニート・チシコフです。「魔法使いのような語り手」とも言われているようですが、かぜをひいて地上に降りてきたお月さまと、それを優しく看病する青年との心の触れ合いが、温かい気持ちにさせてくれます。



今月の本棚…「絵本で芸術を感じよう！」

～「ダニエルのふしぎな絵」「だれもいないおうち」「かげ」「このあかいえほんをひらいたら」「やになった」 などなど～



主人公ダニエルの描く絵は、溢れ出る空想の世界。大好きなお父さんにはなかなか理解してもらえませんが、素敵な出会いからダニエルの未来は切り開かれていきます。個性の素晴らしさ、それに気づき認めることの大切さを教えてくれます。「だれもいないおうち」は、一匹のクモが森に巣を作って、自分の王国を作っていくお話です。クモの巣は生きていく為の唯一の手段のはずなのに、美に目覚めてしまったメルシー。朝露に濡れてかがやく巣も十分美しいですが、それには満足せず木の実や虫の羽などで飾りたてていきます。芸術作品のように美しい王国ができあがりますが、気が付くと周りには誰もいなくなり、そしてお腹をすかせたメルシー自身も去っていくという物悲しい喜劇のようなお話です。



ほっとフレイク

またしても、緑の復活です。オープン時からずっとイベントホールに置いてあった、シンゴニウムの大きな鉢2つ。ちょっとずつ元気がなくなり、夏前に全ての葉が茎と共に枯れてしまいました。丸坊主になった鉢でしたが、環境がよくないのかも諦め半分外に出してみました。すると7月の終わり頃、ふと見ると茶色の茎から小さな緑の芽が出ているではありませんか。雨にあたってたっぷり水分補給ができて、太陽の光もしっかり浴びたからでしょうか。そのうちあれよあれよと茎が伸びて葉が広がり、2つとも完全復活をなしとげました。



このシンゴニウムも胡蝶蘭と一緒に、あやうくお役御免になるころでした。自然の生命力って、ほんとに強いなあとつくづく感じました。それと同時に、育てる側もちょっとした変化を見逃さないように心を配ること、そしてすぐに諦めないことも大切だなと思いました。